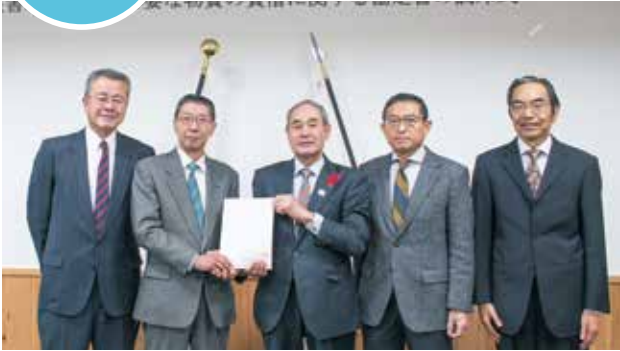


12 / 4

川を知る会と災害時における協定を締結



(左から)事務局長の古館雅晴さん、加藤会長、熊谷町長、幹事長の佐藤美津彦さん、幹事の檜山稔さん

町と川を知る会(加藤正規会長)は、「災害時における必要な物資の貸借に関する協定」を締結しました。これは、水害などの災害が発生した場合や発生の恐れがある場合、川を知る会が所有する8人乗りのボート6艇を町が無償で借り受け、消防署員や消防団による救助活動に使用できるもの。熊谷町長は「災害時はボートなどの装備が必要なので、活用させていただきます」と感謝し、加藤会長は「平成25年の水害や岩泉町での台風被害などもあり、活用してもらえればと思っていました。救助活動に役立ててほしいです」と話しました。

11 / 29

未来に向けた1票を 紫波三中生が模擬投票を体験



各地区ごとの投票箱に一票を投じる生徒たち

明るい選挙啓発授業が紫波第三中学校で行われ、生徒138人が授業を受けました。町選挙管理委員会事務局の職員が、クイズを交えながら選挙の仕組みや課題などについて説明した後、生徒たちは模擬投票と開票作業を体験。架空の選挙公報を読み、公約が実現した場合に将来がどう変わるかなどを考えながら、一票を投じていました。2年生の金澤朋也さんは「投票体験という貴重な体験ができ、どんな票が無効票になるかなども知ることができました。選挙は未来のために大切なことだという意識が強まりました」と将来の有権者としての自覚を深めた様子でした。

12 / 7

交通安全の意識高める



冬道を想定した危険予測トレーニングも行われました

(公社)紫波町シルバー人材センター(前田稔理事長)は古館公民館で交通安全講習会を開催し、会員67人が参加しました。県警察本部交通企画課の佐々木大輔さんは「運転時は原則ハイビーム走行を心掛けること」「歩行時は手足に反射材を付けること」「目だけではなく耳も使って安全確認すること」「冬道では車間距離を普段の2倍とること」などが重要と講話。その後、危険を予測するトレーニング装置を使用し、発進時の安全確認や、車の影からの人の飛び出しに注意を払うことが大切だということなどを学びました。

12 / 7

寒さを吹き飛ばす熱戦を展開 町輪投げ大会



会場には仲間たちの声援が飛び交っていました

第38回紫波町輪投げ大会が総合体育館で開催されました。高齢者がレクリエーションに親しむ機会をつくり、健康と生きがいづくりを日常的に行ってもらおうと、町教育委員会と(一財)紫波町体育協会が主催。町内の老人クラブ42チーム294人が参加し、熱戦が繰り広げられました。赤沢地区の藤原栄さんは「チームが一丸となって競技に励みながらも、皆さんとお話したり交流したりするのが楽しいです」と笑顔でした。この大会の結果は次のとおりです。

- ・優勝 上平沢寿会A(志和地区)
- ・第2位 寿会(彦部地区) ・第3位 老友会A(赤石地区)

12/17

図書館のデザインに込める思いを語る



デザイン当時を思い出しながら制作意図などを語った
(左から)李さん、佐藤さん、小田中さん、五日市さん

町図書館は、図書館5周年記念トークイベント「図書館にデザインは必要か?」を情報交流館で開きました。オガールプロジェクト全体のデザイン監修を行う佐藤直樹さん、図書館バッグなどの型染絵を担当した型染職人の小田中耕一さん(志和地区)、図書館のユニフォームを手掛けた五日市美子さんがデザインに込めた思いや制作時の裏話などを披露。また、コーディネーターを務めたアカデミック・リソース・ガイド(株)の李明喜さんは「町民や職員のことを考え、プロセスを踏んでデザインが考えられた図書館は全国的にも珍しいです」と評価しました。

12/17

これからの自主防災を考える研修会



「大人の目線だけで考えるのではなく、子どもの意見や考えを取り入れることも大切」と話した佐藤さん

町は、自主防災リーダー研修会を役場会議室で開きました。県地域防災サポーターの佐藤志行さんが一関市中里地区で取り組む自主防災活動について講話。佐藤さんは「防災・減災の基本は地域づくり活動。人の意見を否定しないことが大前提であり、その上で人が活躍して輝くこと、人と人のつながりや組織間のつながりを持つことが重要で」と訴えました。参加した自主防災組織のリーダーや自治公民館長、行政区長など約120人は、時折うなずきながら地域での防災活動の重要性に理解を深めていました。

12/28

町産鏡餅で迎える新年



子どもたちも同席し、にぎやかに行われた贈呈式

JAいわて中央紫波地域もち米生産部会(岩館則雄部会長)は7升と5升の鏡餅を町に贈呈しました。鏡餅には、町内の農家が生産したもち米を使用。熊谷町長は「貴重なもち米で作った鏡餅を贈呈していただきありがとうございます。全国有数のもち米産地であることを誇りに思います」と感謝の気持ちを述べました。この他、贈呈式に同席したオガール保育園の年長組の園児23人には紅白餅がプレゼントされました。鏡餅は、12月28日から1月11日まで、役場庁舎の1階ホールと情報交流館に飾られ、新年の幕開けに花を添えました。

12/19

「しわっせ」にサンタさんがやって来た!



「サンタさん!」子どもたちの歓声が響き渡りました

子育て応援センター「しわっせ」でクリスマス会が開かれ、親子約130人が、職員による「白雪姫」の劇や「ジングルベル」の歌に合わせて楽器演奏を楽しみました。劇の終盤にはサンタさんが登場。子どもたちは愛らしい笑顔でサンタさんから写真立てとお菓子を受け取りました。写真立ての一部は、しわっせに職場体験に訪れた矢巾北中学校の生徒たちが手作りしたもの。赤石地区の瀬川沙友里さんと暖君親子は「サンタさんを初めて見たので泣いてしまいましたが、一緒に写真を撮れて満足です。写真立てには今日撮った写真を飾りたいです」と楽しんだ様子でした。